

第162回 令和8年1月26日（月）

「AXについて。」

企業などでデジタルによる合理化を進めることを「DX（デジタルトランスフォーメーション）」と言います。これはかなり浸透している言葉で、学校などの教育関係では出遅れていますが民間企業では進んでいます。

民間企業では「時間=お金」というタイムパフォーマンスの意識が徹底しています。基本的に残業手当は会社の損益ですから時間内に終わるはずの業務が時間外労働になることはマイナスとなります。

昭和の時代では24時間働く人物を良い社員と考えていましたが、令和では180度価値観が変わっています。

ソフトバンクの孫社長などが次に提唱しているのが「AX」です。こちらはAIによる社会の変革です。DXをはるかに超えるインパクトを持っています。

今後日本が人口減少期に入るのは避けられない事実です。団塊ジュニア世代などのボリュームゾーンの人々もこれから減り始めます。知識・技術の若い世代への継承も十分とは言えません。

そこでリタイアしていく世代の膨大な技術や知識をAIに投入して、今後は若い世代がAIとともに社会を牽引していく、これがAXと呼ばれる考え方です。

巨大企業は本気になって何億人の記憶の継承を始めています。近い将来半分近くAIやロボットで企業を担う時代が来るかもしれません。以前紹介したアマゾンの大量解雇はその前兆といえます。

高齢者は自らの知識・技術をAIに提供することで対価を得る、生産年齢世代はAIからアドバイスや助力を得ながら業務を進めていく時代が来ることはほぼ間違いないでしょう。

なかにはAIだけで仕事が進められる職種も増えてくると思います。教育も同様です。すでに予備校がそうなっていますが、AI教師がメインの通信制の学校が人気を集める時代が来るかもしれません。

コミュニケーションや対話もAIはかなり上手にこなせるようになってきました。AIが発達するとコミュニケーションに支障が出るという危惧は解消されつつあります。

ただし人間と人間のコミュニケーションには「感じる」レベルの非言語領域の感覚があります。言葉のトーンや間、表情、しぐさなど、言葉以上に感情を強く現し、相手はそれを感じ取ります。

人類が今後AIによって進化するのか、退化するのか。使い方を間違わないようにするためにAIがシンギュラリティを迎える前である今こそルールをしっかり決めておくことが大事なのかもしれません。退化ならまだしも、滅亡につながることも十分考えられると思います。